

## 今月の スポットライト

さわやか愛知とともに歩んでくださるケアワーカーの一人ひとりをご紹介します。このコーナーです。

ゲストは 青山幸子 さん

今回のゲストの青山さんは、さわやか愛知の第6番目の加入者です。書記や広報や会報誌の作成にも携わった大先輩です。当時のふれあいニュース創刊号（1995年）には「手助けする者とされる者が、いつも対等の立場で助け合う組織をめざす」という理事長の言葉が掲げられています。今回はお手紙という形で寄稿を頂きました。

会報誌で、理事長の元気なお姿を嬉しく拝見しました。

さわやか愛知が、大きく立派な団体となったことを自分のことのようにうれしく思いました。

今回の原稿のご依頼に、懐かしさとともに「私のようなものが…」と申し訳ない気持ちで、遠い30年前の自分を思い出しています。

理事長との初対面は1992年7月26日。

子育て中の私は、介護に起因するやっかいな人間関係に悩み、家事もままならず、精神的にまいっていました。偶然チラシを見て電話をし、利用者となりました。

転機は1994年。理事長から、当時の理事長の愛車赤いツーシーターでドライブにと誘われたこと。助手席の私に「広報係をやってみない？」というお言葉をいただき、大変驚きました。結婚前、編集者として働いたことが少しでもお役に立てたらとお引き受けしました。

それから専従者として働いた日々は、私の人生の立て直しの「記念すべきとき」でした。

様々な企画を実行に移す理事長を見て、たくさんの力をもらいました。

その後、家族の急逝により活動を終えることになりましたが、この時の経験は私の人生後半を照らす「光」となりました。

人間は精神的な生き物であり、そのことにおいて理事長は健康そのものの存在でした。

スピーディーかつバランス感覚に優れた働きぶりに目を見張りました。いろんな行事に「広報担当」として参加させていただきましたが、それは私にとって「精神的なりハビリ」に他なりませんでした。

「おばあちゃん」とやさしく声かけし、お姑さんをお世話なさり、「炊き立てのご飯しか食べないのよ」とご主人を気遣っておられた理事長の日常。今でもよく思い出します。少しでもそれに近づけたらと思っていたことが私の教科書となりました。

私がした仕事は、本当にささやかなものでしたが、さわやか愛知からは生きる力をいただきました。

活動がきっかけでさまざまな新しい交流が始まり今に続き、そのことは一主婦の視点しかなかった私にとって、客観的考え方を学ぶ機会となりました。さらには不安定に陥りがちな自らのコンディションをコントロールする力となりました。私の病気は快癒し、今ではその医療関係者とは友人として良好な関係を保っています。

こんなふうに、たった一枚のチラシから、ポロのように疲れていた私は70歳の今を元気に過ごせています。

理事長には心からのお礼を申し上げます。

さわやか愛知の原初の活動の形が、ここに見られます。冒頭に紹介した理事長の言葉が、ずっと変わらない、さわやか愛知の目指すことです。そのために自分にできること自分がなすべきことを、沈黙考すべき時だと考えさせられました。

次回は 尾関敏子さんです

## 最近のデイサービスのご様子

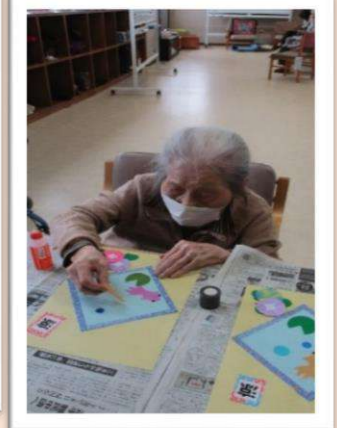
### コースター作り



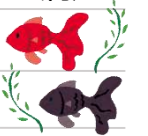
なおちゃんのりんごのコースターを作成しました。このコースターを使ってお茶を飲めば美味しさ倍増ですね。



### 金魚の貼り絵



夏らしい金魚の貼り絵が出来ました。涼しげな仕上がりに、ご利用者様も満足そうです。



### 避難訓練



6月16日に、本番さながらの避難訓練を行いました。普段はエレベーターで降りられるご利用者様も、真剣な表情で取り組まれていました。

### 朝採り野菜の収穫



さわやかタウンの近藤農園で、収穫を手伝っていただきました。早速、皆様で召し上がっていただき、「美味しい～」や「甘い～」との声をいただきました。

この他にも、楽しいイベントはまだまだ盛りだくさん！ホームページにも掲載していますので、ぜひ御覧ください！

さわやか愛知

検索